

SUABRU、純利益が470億円下振れ その本当の理由はリコール費用??

昨日のブログの続きです。

昨日 SUBARU は利益が下振れすることを自社のホームページで発表しましたが、その原因については触れられていませんでした。

本日の日本経済新聞では、その原因に鋭く切り込んでいます。リコール費用は意外と大きく利益を圧縮するものです。本来発生しないはずのリコールを表立って声高に報告することを SUBARU はためらったのでしょうか？

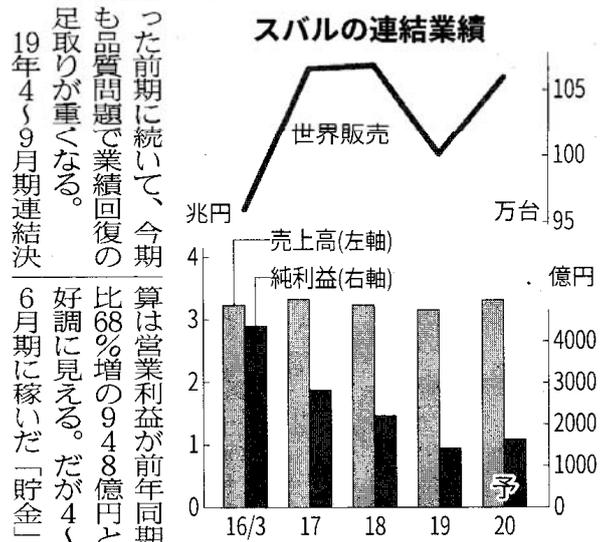
リコールの原因が原因ですから、そのような心理が働いたのでしょう。

日本経済新聞 2019.11.7

# スバル、470億円下振れ

## 今期純利益 リコール費用圧迫

SUBARU(スバル)は6日、2020年3月期の連結純利益(国際会計基準)が前期比15%増の1630億円になる見通しと発表した。従来予想から470億円引き下げた。多目的スポーツ車(SUV)が好調だが、19年7〜9月期にリコール(回収・無償修理)費用650億円を計上したのが重荷となった。完成検査不正などでリコール費が1000億円にのぼ



つた前期に続いて、今期も品質問題で業績回復の足取りが重くなる。19年4〜9月期連結決算は営業利益が前年同期比68%増の948億円と好調に見える。だが4〜6月期に稼いだ「貯金」

922億円をひいた7〜9月期の稼ぎはわずか26億円にとどまった。負担になったのはリコール費用だ。北米で乗用車のシート下の乗員検知システムの不具合が見つかり、リコールに踏み切った。国内でも複数車種でリコールを余儀なくされた。中村知美社長兼最高経営責任者(CEO)は決算会見で「リコールなかりせばそれなりの実績をのこせただけで、じくじたる思いだ」と悔しそつな表情を浮かべた。「フォレスター」や「アセント」などが人気で販売そのものは堅調だ。20年3月期通期の売上高見

通しは5%増の3兆3100億円と据え置いた。だが、通期の営業利益は21%増の2200億円と、従来予想から400億円の引き下げだ。業績前提の為替レートを1ドル107円とこれまでより3円円高に見直したのも、営業利益を264億円減りさせた。スバルは9月にトヨタ自動車と新たに資本業務提携を発表した。会見では品質問題を抱えたままでは今後トヨタグループ内で製品供給をする際に支障が出るのではとの質問に対し、「トヨタからも学んで品質を向上させ」と強調した。

2019年11月6日

## 2020年3月期 第2四半期連結業績の概要

### <2020年3月期 第2四半期業績:連結売上収益>

全世界販売台数は、前年同期比4.1%増の504千台\*1となりました。

海外販売では、米国市場において新型フォレスターや2018年に販売を開始したアセントが好調に推移したことなどにより、同4.5%増の436千台となりました。国内販売では、新型フォレスターおよび2018年10月に「e-BOXER」\*2搭載グレードを追加発売したSUBARU XVなどが寄与し、同1.6%増の68千台となりました。

連結売上収益\*3は、販売台数の増加などにより、同7.7%増の1兆6,057億円となりました。

当社は当期より、従来の日本基準に替えて国際財務報告基準(IFRS)を任意適用しています。

そのため、比較対象となる2019年3月期 第2四半期連結業績および通期連結業績(日本基準)を、IFRSに従って再計算した上で、比較・分析をしています。

なお、全世界生産台数は同1.3%増の498千台となりました。

国内生産は、フォレスターが増加したことにより、前年同期を上回りました。

海外(米国 SIA\*4)生産については、アセントおよびインプレッサが増加しましたが、レガシィおよびアウトバックがモデル切り替えの影響で減少したことなどにより、前年同期並みの水準となりました。

### <2020年3月期 第2四半期業績:連結損益>

連結損益については、前年同期に比べ、販売台数の増加および販売奨励金の抑制、品質関連費用を含む諸経費等ならびに研究開発費の減少などにより、営業利益は前年同期比68.1%増となる948億円になりました。税引前利益\*5は同54.0%増の931億円、親会社の所有者に帰属する四半期利益\*6は同58.4%増の683億円になりました。

### <2020年3月期 通期連結業績見通し>

通期連結業績見通しについては、前回(2019年8月5日)発表値\*7に対して、販売奨励金の抑制などによる改善を見込むものの、品質関連費用を主因とする諸経費等の増加、想定為替レートの見直し(円高方向)や台風19号による操業影響などを織り込むことから、営業利益2,200億円(前年同期比21.1%増)、税引前利益2,200億円(同18.3%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益1,630億円(同15.3%増)にそれぞれ修正します。

なお、全世界販売台数、連結売上収益は、前回発表値から変更ありません。

また、通期連結業績見通しの前提となる為替レートは¥107/US\$、¥119/EUROです。

#### ※ 前回(2019年8月5日)公表の通期連結業績見通し\*7

全世界販売台数 1,058千台

連結売上収益 3兆3,100億円

営業利益 2,600億円、税引前利益 2,700億円、親会社の所有者に帰属する当期利益 2,100億円

想定為替レート ¥110/US\$、¥120/EURO

\*1:IFRS任意適用により、日本国内のみ売上計上基準が変更。

日本基準:自動車の登録日に売上計上 IFRS:お客様への納車日に売上計上。

\*2:SUBARUらしい走りの愉しさに加えて環境にも配慮した、水平対向エンジンと電動化技術を組み合わせた新開発パワーユニット

\*3:日本基準における「売上高」を「売上収益」と表示。

\*4:Subaru of Indiana Automotive, Inc.

\*5:日本基準における「税引前利益」を「税引前利益」と表示。

\*6:日本基準における「親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益」を「親会社の所有者に帰属する当期(四半期)利益」と表示。

\*7:期初(2019年5月11日)発表値と同一。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、発表日現在において入手可能な情報に基づいたものであり、実際の業績等は今後様々な要因によって大きく異なる可能性があります。